2020年3月期
第3四半期決算報告
（2020年2月5日）

日清食品ホールディングス株式会社

（2897）

エグゼクティブサマリー

2019年度 経営方針

環境変化に対応した施策を確実に執行し収益力の強化に努める

国　内：価格改定でコスト増の向かい風を跳ね返し収益基盤の安定化を図る
独創性の高いブランド戦略で売上拡大と利益創出を目指す
関西工場（日清食品）の生産性向上を早期実現し、将来の利益の礎とする

海　外：米国における構造改革（価格改定、コスト削減、商品ポートフォリオの見直し）を断行し、早期に利益改善をすすめる
中国における安定的な成長を継続する
インド、インドネシアの早期黒字化を目指し、ブランド強化と収益力の強化に取り組む

全　体：グループを挙げてコスト削減に取り組み、経営基盤の強化に努める

第3四半期の振り返り

連　結：増収・増益（営業利益、親会社の所有者に帰属する四半期利益）

国　内：増収・減益

- 即席めん事業：6月の価格改定が順調に浸透し日清食品・明星食品共に増収。原材料費、物流費の上昇に加え、日清食品関西工場稼働による償却費増の影響を跳ね返し増益。売上・利益ともに期初計画の想定内で着地
- 低温事業：増収・減益
- 菓子・飲料事業：減収・減益
- 国内減益の要因として前期第1四半期で計上した固定資産売却益52億円の影響が大きい

海　外：増収・増益

- 米州地域：米国事業の業績回復。ブラジル事業、メキシコ事業の好調が続き、増収、大幅増益
- 中国地域：増収・増益。特に大陸における増収が利益増に貢献
- アジア地域：タイが貢献し増収。営業利益はタイ・インドネシアが貢献し増益。持分法による投資利益増も増益に貢献

第3四半期総括

連結全体で業績は好調
国内事業は即席めん事業が好調
海外は全セグメントで増収増益

第3四半期　実績サマリー

（単位：億円）

	2019年度			2018年度
	第3四半期	前期差異	前期比	第3四半期
売上収益	3,480	+113	+3.4%	3,368
営業利益	355	+8	+2.2%	348
親会社の所有者に帰属する四半期純利益	256	+9	+3.8%	247
営業利益率	10.2%	▲0.1pt		10.3%
親会社の所有者に帰属する四半期純利益率	7.4%	+0.0pt		7.3%

セグメント別　売上収益実績

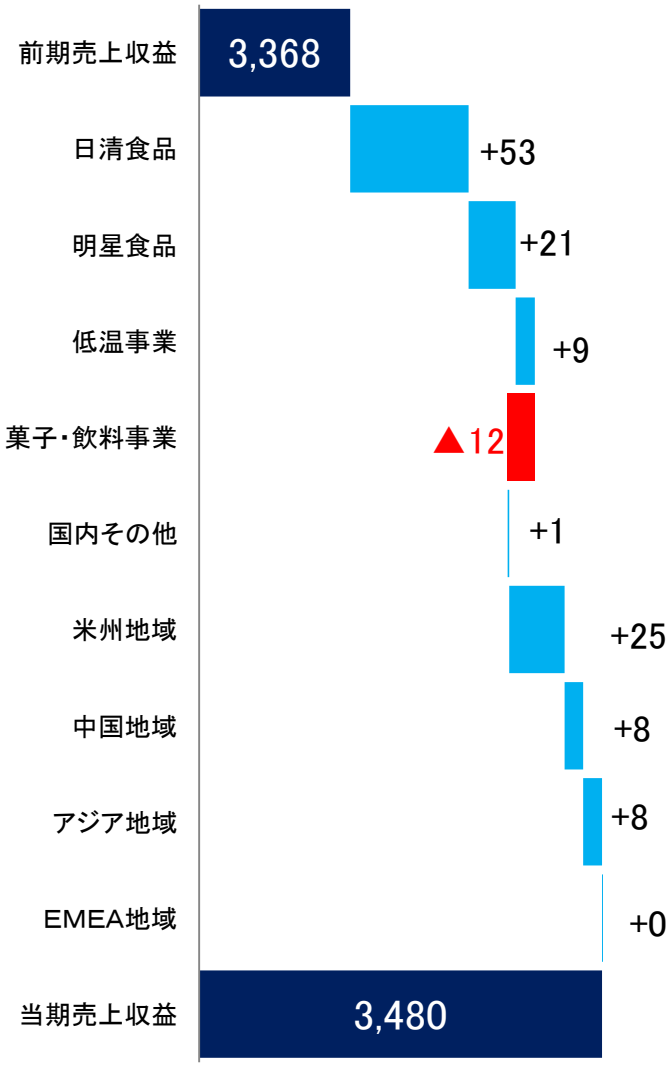
（単位：億円）

	2019年度			2018年度
	第3四半期	前期差異	前期比	第3四半期
即席めん事業	1,777	+74	+4.3%	1,703
日清食品	1,508	+53	+3.6%	1,455
明星食品	270	+21	+8.5%	249
低温事業	429	+9	+2.0%	420
菓子・飲料事業	309	▲12	▲3.8%	321
国内その他	32	+1	+2.2%	31
国内　計	2,547	+71	+2.9%	2,476
米州地域	485	+25	+5.4%	460
中国地域	312	+8	+2.7%	303
アジア地域	85	+8	+11.1%	76
EMEA地域	52	+0	+0.8%	52
海外計	933	+42	+4.7%	891
連結売上収益	3,480	+113	+3.4%	3,368

※中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。

セグメント別　売上収益貢献度

（単位：億円）



	増減	主な要因
日清食品	+53	**カップめん（+4%）**：「カップヌードル」「U.F.O.」が堅調 **袋めん（−2%）**：「お椀で食べる」シリーズ堅調、「ラーメン屋さん」が好調 **その他（−3%）**：ライスカテゴリーは好調だがスープ類減収
明星食品	+21	**カップめん（+7%）**：「チャルメラ」の好調に加え、消費の二極化に対応したオープン価格商品も伸長 **袋めん（+3%）**：主要ブランドの「チャルメラ」が伸長、オープン価格商品の「評判屋」も好調を維持
低温事業	+9	**チルド（−6%）**：「ラーメン屋さん」のリニューアルが堅調に推移したが、冷夏及び暖冬による販売減をカバーできず減収 **冷凍（+6%）**：市販用は堅調に推移、業務用は増収
菓子・飲料事業	▲12	**シスコ（−3%）**：シリアルは前年並み、菓子が減収　**ヨーク（−6%）**：「ピルクル」は65ml中心に増収、「十勝のむヨーグルト」は市場の停滞等が影響し減収　**ぼんち（−1%）**：ほぼ前年並み
国内その他	+1	
米州地域	+25	*為替影響額（▲22）…　主にブラジルレアル安による影響 **米国（+5%）**：値上げ及びプレミアム商品の販売増で増収 **メキシコ（+20%）**：「CUP NOODLES」の販売が好調、値上げ効果も寄与し大幅増収 **ブラジル（+15%）**：「CUP NOODLES」を含む主力商品が好調
中国地域	+8	*為替影響額（▲15） **香港（+1%）**：即席麺の高価格帯商品が牽引。MCMSは減収 **大陸（+13%）**：「カップヌードル」、「出前一丁」が順調で増収
アジア地域	+8	*為替影響額（▲1）売上額が多い順 **タイ**：増収、**インド**：増収、**シンガポール**：増収、**インドネシア**：減収、**ベトナム**：減収
EMEA地域	+0	*為替影響額（▲4） **欧州地域**：「CUP NOODLES」「Soba」ブランドが好調に推移し、増収。
合計	+113	*為替影響額（▲41）

プラス要素　マイナス要素

※日清食品、明星食品の（）内の前期比は、各カテゴリーのメーカー出荷額ベースの前期比でIFRS売上収益の前期比ではありません。
※海外のコメント、前年比はすべて現地通貨ベースの売上収益に基づいて記載しております。

セグメント別　営業利益実績

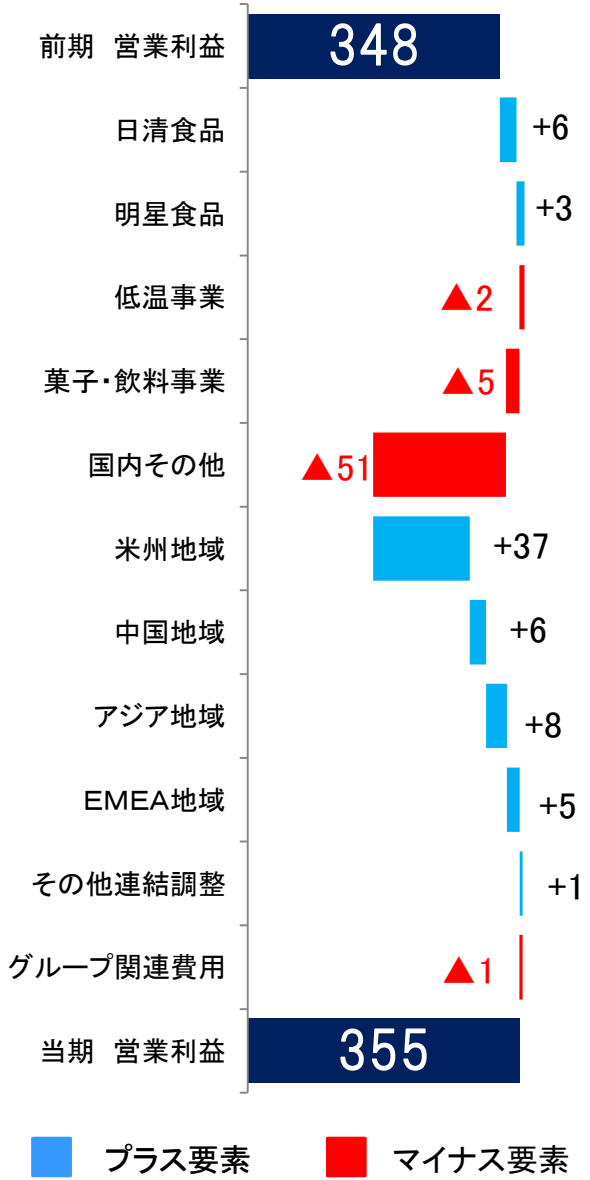
（単位：億円）

	2019年度 第3四半期	2019年度 前期差異	2019年度 前期比	2018年度 第3四半期
即席めん事業	248	+10	+4.0%	239
日清食品	224	+6	+3.0%	218
明星食品	24	+3	+14.4%	21
低温事業	15	▲2	▲11.7%	17
菓子・飲料事業	16	▲5	▲24.9%	21
国内その他	13	▲51	▲80.3%	64
国内　計	292	▲49	▲14.4%	341
米州地域	36	+37	－	△1
中国地域	30	+6	+26.4%	24
アジア地域	27	+8	+42.6%	19
EMEA地域	12	+5	+74.0%	7
海外計	105	+57	+117.1%	49
その他連結調整	△1	+1	－	△2
グループ関連費用	△40	▲1	－	△39
連結営業利益	355	+8	+2.2%	348

※中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。

セグメント別　営業利益貢献度

（単位：億円）



	増減	主な要因
日清食品	+6	＋ 価格改定による売上増 － 関西工場減価償却費、物流費、原材料費等の増加
明星食品	+3	価格改定が順調に進み、物流費、人件費、原材料費等の増加を吸収。販売数量も伸び増益
低温事業	▲2	**チルド**：冷夏及び暖冬による販売数量減及び販促費用増が影響し減益 **冷凍**：子会社清算に伴う戻り益があった一方、物流費の増加により減益
菓子・飲料事業	▲5	**シスコ**：前期、特別利益の計上があり減益　**ヨーク**：減価償却費増加により減益　**ぼんち**：減益　**持分法による投資損益**：増益
国内その他	▲51	前期、不動産売却益発生（+52）
米州地域	+37	*為替影響額（▲2）　…　主にブラジルレアル安による影響 **米国**：価格改定、プレミアム商品へのシフト等が奏功し黒字化 **メキシコ**：値上げ効果が、チャネル構成の変化や注力商品のプロモーション強化費用増をカバーし増益 **ブラジル**：売上増による増益効果、税金還付もあり増益
中国地域	+6	*為替影響額（▲2） **香港**：管理費用増で減益　**大陸**：主力商品が堅調で増益
アジア地域	+8	*為替影響額（+1）　…　利益額が多い順（持分法適用会社除く） **タイ**：増益、**シンガポール**：減益、**インドネシア**：赤字縮小、**ベトナム**：赤字、**インド**：赤字縮小。　**持分法による投資損益**：増益
EMEA地域	+5	*為替影響額（▲1） **欧州**：増益　**トルコ**：事業清算　**持分法による投資損益**：増益
調整額	▲0	
合計	+8	*為替影響額（▲4）

※海外のコメントはすべて現地通貨ベースに基づいて記載しております。

営業利益の主な差異要因（非経常損益の影響）

（単位：億円）

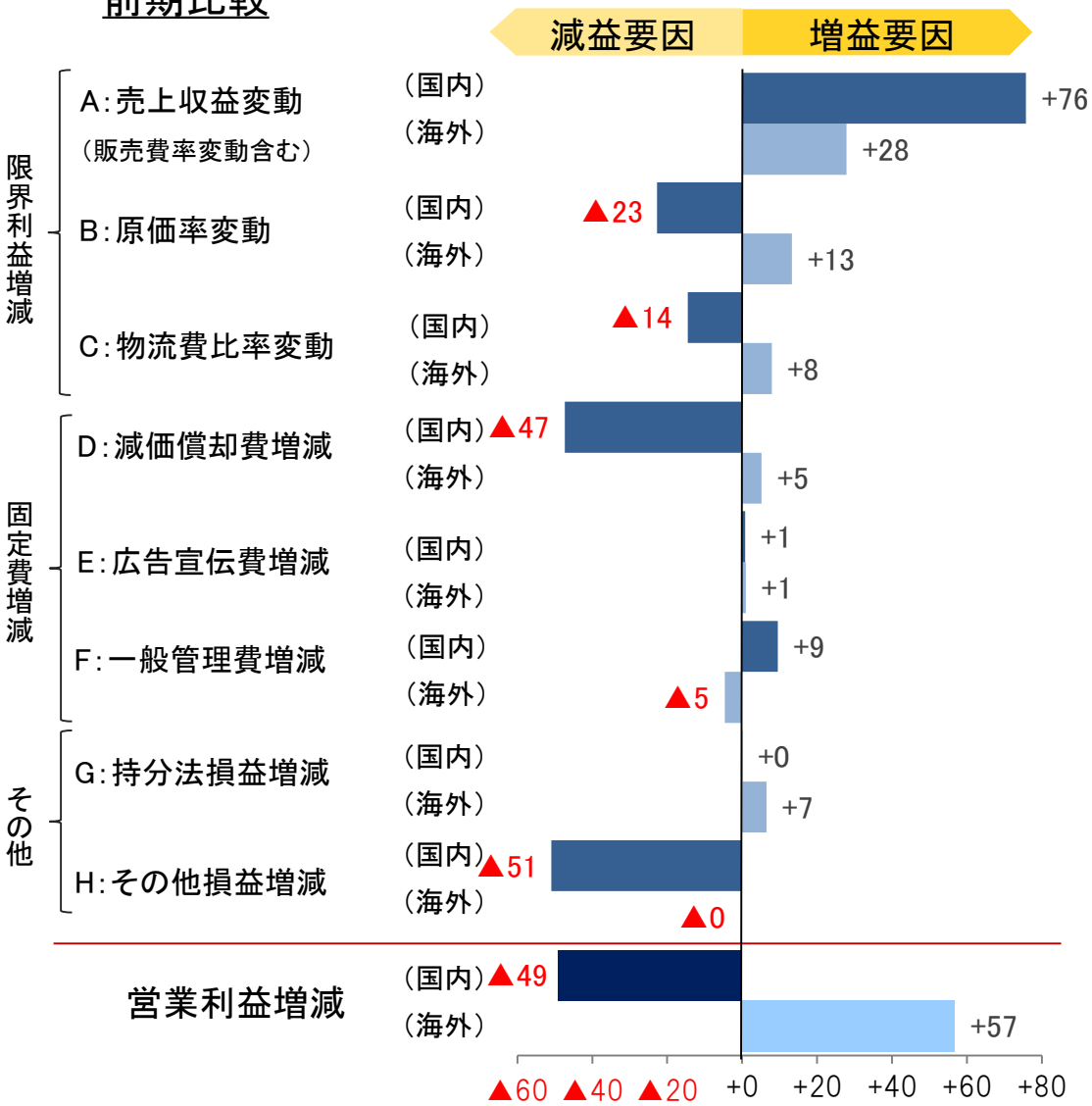
	2019年度 第3四半期	2018年度 第3四半期	営業利益 差異	非経常損益 差異	非経常の主な内容
日清食品	224	218	+6	▲0	
明星食品	24	21	+3	▲0	
低温事業	15	17	▲2	+5	(19)関係会社の清算による影響+5
菓子・飲料事業	16	21	▲5	+1	
国内その他	13	64	▲51	▲56	(18)不動産売却益+52 (19)固定資産減損△4
国内　計	292	341	▲49	▲51	
米州地域	36	△1	+37	▲0	
中国地域	30	24	+6	+1	
アジア地域	27	19	+8	▲3	(18)固定資産売却益+3
EMEA地域	12	7	+5	+1	
海外　計	105	49	+57	▲0	
その他連結調整	△1	△2	+1	▲0	
グループ関連費用	△40	△39	▲1	–	
連結営業利益	355	348	+8	▲52	

※「非経常損益の主な内容」に記載の数値について：　＋益、△損

第3四半期　営業利益　増減分析　／　連結　（国内・海外）

前期比較

（単位：億円）



【 国　内 】

■ 売上収益変動
　＋ 価格改定の影響、販売費率の良化　等
■ 原価率変動
　－ 商品ミックスの影響　等
■ 物流費比率変動
　＋ 在庫減少　等
　－ 物流単価増　等
■ 減価償却費増減
　－ 関西工場稼働、IFRS16号の影響（22）　等
■ その他損益増減
　－ 前期、不動産売却益を計上（52）　等
　＋ 関係会社の清算による影響（5）　等

【 海　外 】

■ 売上収益変動
　＋ 価格改定の影響　等
■ 原価率変動
　＋ 主に米国の商品ミックス影響　等
■ 物流費比率変動
　＋ 米州地域における物流費改善の影響　等
■ 減価償却費増減
　＋ 各セグメントにおける減価償却費減　等

※ 連結全体では、別途「調整額」の差異が発生しますが、第3四半期の差異は軽微です。

※ 限界利益分析は、売上収益に販売費控除額を足し戻した額を元に算定しています。

【増減要因の算出法】　①限界利益（A,B,C）＝（当期の売上収益 × 前期の売上収益比率） － 当期費用　②固定費（D,E,F） ＝ 前期費用 － 当期費用

③その他（G,H） ＝ 前期実績 － 当期実績

※価格改定の影響をより実態に即して表現するために、2019年度第2四半期より計算方法を変更しています。

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場の大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算説明会関連資料」に掲載しています。
  https://www.nissin.com/jp/ir/library/
- この資料の金額は、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等があわない場合があります。
- 当該資料の決算期は原則として、2019年4月1日～2020年3月31日を「2019年度」とします。
- 売上収益・利益の「増減率」は決算短信と同じ±%表記を適用しています。
- 資料中の三角表記について、絶対値のマイナスは△、増減のマイナスは▲で表記しています。
- 海外の関連会社の収益・費用は累計期間の期中平均為替レートを適用しています。
- 中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。また、中国地域の事業計画は日清食品HDが独自に設定した目標です。

日清食品ホールディングス株式会社